

# 宗岡二中だより 12月号



令和6年12月2日

自ら学び考える生徒

学校教育目標：心豊かな優しい生徒

明るく元気な生徒

## 地域の人財（たから）をどう育てていくか

教頭 大木 雄平

突然ですが、右枠の3つの質問に答えてみてください。

教師になりたての頃の私は、受け持った子どもたちについて、間違いなく②の方を早く挙げていました。そして、その内容を「～しなさい。」「～しなきゃだめだ。」と叱ってなおそうとしていました。よいところ、がんばっているところを伝えることはあまりなかったと記憶しています。

- ①お子さん(お孫さん)のよいところ、がんばっているところを10個挙げてみてください。
- ②逆に、直してほしいところ、もう少しがんばってほしいところを10個挙げてみてください。
- ③①と②では、どちらが早く挙げられましたか。

体育祭当日の指導講評及び学校だより6月号でもお伝えしましたが、本校の生徒は一人一人によいところ、がんばっているところがあります。それをどう伸ばしていくか、どう成長につなげていくかは、周りの大人たちが子どもたちを認めてあげることにかかっていると私は考えています。

例えば右の写真は、書初めの練習に取り組む1年生が部屋に入る際、入口で上履きをきれいに並べた様子を撮影したものです。私は、この写真をすぐに印刷し、「美しい並べ方で美しい字を」と書いて入口に掲示しました。それは、授業中で直接子どもたちに素晴らしさを伝えられなかったため、そしてこれから部屋を使う子どもたちにも真似してほしいと思ったためでした。(担当教員に聞いたところ、子どもたちは教員が声をかけなくても自発的に整然と並べたそうです。)



そもそも、なぜ靴をきれいに並べるのかというと、お互いが気持ちよく過ごせるからではないでしょうか。人は常に他の人と共に生活しています。右の写真のように、人の話をしっかり聴くということも、他の人と気持ちよく生活するうえで大切な力であり、社会に出て必要な力なのです。



私が日々よいところに目を向け、くり返し「がんばっているところを認めてあげてください。」と皆様をお願いしているのは、子どもたちの行為を大人がきちんと価値づけることが、子どもたちの成長につながるからです。前述した上履きの件は、保護者、地域の方や小学校の先生方が子どもたちにくり返し指導してきた賜物でもあると思います。右の表は、本年度の埼玉県学力・学習調査の質問紙調査から抜粋したデータですが、もっと数値が高くてよいと感じるくらい、子どもたちは日々がんばっています。これからも、学校、家庭、地域が一丸となって子どもたちのよいところを認め、人財を育てていきたいと思います。

県学調査質問紙調査「自分にはよいところがあると思う」

	思う	思わない
1年	79.5%	19.6%
2年	68.6%	30.4%
3年	84.7%	15.3%

※それぞれ「どちらかと思う(思わない)」の回答を含んだ数値です。